

平成29年度第2回足立区総合教育会議 要旨

【議題】就学前における家庭教育支援について 前回会議からの継続審議

(1) 平成29年度第1回総合教育会議の議事確認について

【第1回会議における意見のポイント説明】

- ・ 行政の支援が縦割りで、区民や第三者が、家庭に対してどのような支援があるか見えにくい。
- ・ 精神が不安定な親御さんがいる家庭、ひとり親の家庭、外国人の家庭等、さまざまな家庭状況を踏まえ、支援を行う職種間での連携強化が必要。
- ・ 学校、保育園における支援に関して、個別に対応できる範囲にとどまっているため、他の部署も含めて家庭に入るきっかけづくりが必要。
- ・ データを深掘りする必要があるのではないか。
- ・ 支援にめりはりをつけて、一点突破で成果を出すことも必要ではないか。

(2) 就学前における親子に対する支援の課題について

【資料のポイント説明】

- ・ 全ての事業を俯瞰して見ると、それぞれ必要な方に対し支援できるよう組み込まれている。しかし、事業の枠内の取組みはできても、そこから家庭に入るきっかけがなかなか作れていないという指摘はいただいている。
- ・ 家庭の状況によって、それぞれ課題が生じている。ひとり親であれば、仕事と役所の窓口時間が重なり相談しづらい、生活困窮であれば、通常のケースワークに加え就学前の子どもに関する支援まで行うには人的限界がある、外国人であれば言葉、文化の障壁といったことがある。
- ・ 親自らが、子育てに関して問題意識を持っていない、行政の支援の手を求めない、助言を受けても変わらないといった課題も見えている。

(3) 就学前における家庭教育の必要性について

【意見の概要】

- ・ 外国人家庭やひとり親家庭の一番の問題は孤立化。そのような家庭に対し、必要な情報をどのように届け、寄り添っていくのかという点で、一般の家庭より支援の必要性は高いと考える。
- ・ 行政として手は打っているが、どのようにこれをつなげていくか、孤立させない政策を考えていけばいいのではないか。
- ・ A S M A P 事業だけでなく、地域全体で就学前の子と親を支えるような取り組みができないか考えている。
- ・ 幼稚園・保育園がプラットフォームになる子ども達はいいいけれど、そうでないところの手助けをどのようにするかも重要。
- ・ 子ども家庭部の新しい施策として、それぞれの所属で動いているものを横断的につなげ、アセスメントまで行えるような、家庭教育支援チームという仕組みを考えている。



次回会議に向けて

- ・ どのような事業を新しく打つか、ターゲットの絞り込みも含めて具体的に検討する。